

地震災害予測研究会（第8回）議事要旨

日 時：平成23年2月28日(月) 15:00～17:00

場 所：八重洲ダイビル 地下2階 第2会議室

出席者：（順不同、敬称略）

（委員）北川良和 翠川三郎

和泉正哲 瀨瀬一起 腰原幹雄 境有紀 林康裕 緑川光正

（機構）大滝(リスク業務室長) 江口(火災・地震保険部長)

丸楠(火災・地震保険部地震グループリーダー)

（事務局）損保料率機構リスク業務室

議 事：

1. 報告書（案）について

A. 事務局より、これまで2カ年の地震災害予測研究会で行った議論を取りまとめた報告書（案）の説明を行った。

2. 住宅の損壊被害予測手法に関する研究について

A. 前回に引き続き、委託先より検討状況を報告した。ポイントは以下のとおり。なお、このテーマは平成23・24年度地震災害予測研究会でも取り上げることとした。

1) 被害関数の作成に着手する前に、被害率に対する建築年や階数などの建物属性や地震動強さ指標などの感度分析を行う。分析対象は、建物属性や住所情報が詳細に把握可能である2007年以降の地震のデータとする。

B. 委員から、下記の意見があった。

1) 2006年以前の地震による被害データを利用しないのは惜しいため、それらのデータの有効利用を検討すべき。

2) 地震動データについては、まず利用する地震観測点の地震計の設置環境を調査し、設置環境のよいデータのみを選択して利用すべき。

3) 選択された地震動データに割り当てる被害データについては、被害データの所在地と地震観測点との距離の近さ、地盤条件の類似性を意識してできる限り個別に確認して選択していくべき。

以 上